

3 平成 28 年度（指定 2 年次）の実施概要（成果と課題）

3.1 <年次計画と達成項目（☆は 1 年次・★は 2 年次で実施できた項目・△は着手しているが未完の項目）>

研究開発計画	評価計画
平成 27 年度（第 1 年次）	
<p>①後期課程の「国際教養」領域（総合的学習の時間を含む）について、仮説Ⅰの課題達成に必要な事柄の見直しを行う。重点項目☆</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究を実施する。重点項目☆</p> <p>③仮説Ⅱの実施に必要な外部連携のネットワークを構築し、連携事業を一部開始する。重点項目☆</p> <p>④仮説Ⅲの実施の第 1 段階として、課題研究の成果についての評価を外部と連携して行う。☆</p> <p>⑤SGHAct の単位認定制度のための検討を行う。★</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究の体系に関する調査・データ収集と本校の課題との比較☆ ・生徒の課題研究テーマと主軸概念の関係についての校内アンケート調査 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究テーマについての外部連携機関の関心度調査 ・外部コンテストや研究発表会への参加☆
平成 28 年度（第 2 年次）	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系整備の実施。具体的には、スキル育成に重点を置く前期課程と、課題研究が継続的に高次化することに重点を置く後期課程の連続と体系化を検討・整備する。重点項目☆</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究を、外部連携を強化する形で実施する。重点項目★</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法について共同開発を行う重点項目★</p> <p>④ポスト・アクティブラーニングの教科学習における試行を行う。★</p> <p>⑤SGHAct の単位認定制度の運用方法と要領を定める。</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの体系の整備状況についての検討・評価☆ <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営指導委員会および評価規準・方法策定会議（仮）による、研究開発進捗状況の確認★ ・第 5 回公開研究会における研究開発についての中間発表★
平成 29 年度（第 3 年次）	
<p>①6年間の「国際教養」領域の体系を構築する。必要に応じて、教育課程上の名称変更等を行う。△</p> <p>②仮説Ⅰの課題研究の成果を国内の学会等で発表する。</p> <p>③外部と連携し、課題研究についての評価規準・評価方法の検証を行う。またコンピテンシーについての評価規準・評価方法の共同開発を行う。重点項目★</p> <p>④SGHAct の単位認定制度を施行する。重点項目</p> <p>⑤研究助成のためのコンペティション実施。△</p>	<p><内部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会におけるカリキュラムの運用状況についての検討・評価 ・課題研究の評価についての校内アンケート実施 <p><外部評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SGH 成果発表会開催★

3.2 仮説ごとの実施概要－成果と課題

◇仮説Ⅰ－課題研究の主軸の概念化と課題意識の焦点化

①課題研究－後期課程全学年にて実施・PPの実施期間変更に伴う実施形態の整備・研究ガイダンスの整備と実施・研究倫理規定の整備

②ISS チャレンジ－エントリー数 50 チーム

③国際 A・B での講座開講－外部と継続的に連携するポスト・アクティブラーニングの試行

④Global Café－年間 12 回開催

⑤課題研究支援セミナー開催－年間 6 回開催（計 10 講座）

⑥研修・交流・発表

外部での研究発表 年間 5 回（計 24 チーム）

国内研修・国内交流（国内における外国人の方々との交流を含む）計 7 件

海外研修・海外交流 計 2 件

今年度の大きな成果は①②⑤において表れている。

①課題研究においては、4年生で行わねばならない IB の Personal Project の終了時期が大きく早まったが、生徒は4月から Personal Project と並行して（あるいは PP 自体を SGH 課題研究と関連づける形で）それぞれ課題研究に取り組んだ。PP 終了後はさらに研究としての深化をねらいとし「研究倫理」を含めた課題研究ガイダンスを1ヶ月に亘って体系立てて行うことができた。

②校内の課題研究コンペティションである ISS チャレンジにおいては、昨年度の申請数 29 チームを大きく上回り、50 チームが参加した。校内でこうした競争的取り組みがなされていることは、研究の強い動機付けともなっており、同時に全教員が課題研究に関わるための仕掛けとしても有効に働いている。

⑤課題研究支援セミナーは今年度からの新たな取り組みである。課題研究のための専門家による講義を学校側が主体となって開催する形式をとっている。1 講座の定員を原則 20 名までとし、講義に対して強い関心をよせている生徒を受講対象とした。結果として生徒の満足度も高いものとなり、また生徒からの質問に講師の先生方が丁寧にフィードバックを下さるという関係性も築くことができた。生徒の課題意識の高まりや課題研究そのものの深化にも寄与していると見られる（アンケート結果参照）。

◇仮説Ⅱ－課題研究とその評価に際しての外部機関との連携強化

①外部連携構築－生徒の外部連携数の増加・課題研究支援セミナーの実施

②外部連携評価－外部評価会・課題研究サポート・成果発表会の開催（管理機関主催）

仮説Ⅱにおける今年度の成果は①においては生徒自身による外部連携の増加が挙げられる。特に ISS チャレンジの申請チームにおいては、外部連携の件数が全体として増加している。今年度はそれらの記録をチームごとに丁寧に残しており、次年度以降これらの外部支援先を整理していくことで、学校と外部との連携ネットワーク構築が可能になると考えられる。

また②においては、外部の成果発表会の主催者による課題研究の評価がなされたことが大きい。立教大学主催の発表会や学芸大学主催の発表会においては観点別の評価表が用いられ、口頭発表の評価に用いられた。評価者である大学教員のコメントも発表者にフィードバックされたため、本校生徒にとっては課題研究を改善していくための重要な材料となった。

◇仮説Ⅲ グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法の策定

①評価の観点・評価規準の見直し・改訂・実施

- ②研究計画の評価
- ③研究経過の評価
- ④成果物：最終論文／フィールドノート／ポスターの評価
- ④評価策定委員会の開催
- ⑤管理機関の支援による評価事業の特別開発研究プロジェクト化

仮説Ⅲについては、昨年度の反省をふまえて課題研究の評価の見直しをしたことが成果の一である。ただし、この評価は未だ ISS チャレンジの申請者の範囲に留まっている。次年度以降は課題研究に取り組んでいる全員（全研究）について、これらの評価方法をとっていく必要がある。

昨年度にはなかった新たな点としては④の評価策定委員会の開催と⑤のプロジェクトがある。これら2点はいずれも管理機関との連携の上で実施しており、教員養成大学としての東京学芸大学を管理機関に持つ本校だからこそ実施できている点と言える。特に課題研究を含む学習評価や資質・能力の評価に関しては学芸大学自身が「次世代教育研究推進機構」を中心として OECD との共同研究を行っており、それらの成果との比較検討が、SGH 事業を通じた「資質・能力」の評価の策定につながっていくものと期待できる。

3.3<平成 28 年度（2 年次）終了時点での課題>

<p><仮説Ⅰ> 課題研究の主軸の概念化と課題意識の焦点化—「国際教養」の整備と体系的プログラム構築による課題研究の質の高度化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 6 年間の「国際教養」領域の体系整備の実施—課題研究の体系化に向けた教育課程内における総合的な学習の時間の再編成 ② 教科授業内・教科間連携（IBMYP Interdisciplinary Unit の実施を含む）での課題研究テーマの取り扱い ③ ISS チャレンジに申請しない生徒の課題研究の充実化 ③ 海外研修・国内研修と課題研究内容の関連づけと整理 ④ SGHAct（学校外活動の単位認定制度）の立案
<p><仮説Ⅱ> 課題研究とその評価に際しての外部機関との連携強化—外部機関の支援・連携による課題研究の深化と資質・能力の高度化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 外部機関を含めた評価規準・方法策定会議の開設 ② 定期的な外部講師の招聘とそれを活用した課題研究の体系化 ③ 外部連携を取り入れたポスト・アクティブラーニングの構想と試行
<p><仮説Ⅲ> グローバル・コンピテンシーの評価規準・評価方法の策定—外部機関共同策定による評価規準・評価方法の妥当性・信頼性の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 課題研究の評価方法・評価規準の策定（ISS チャレンジ/国際教養：総合的学習の時間）と試行 ② 課題研究および SGH 事業通じて育成する「グローバル・コンピテンシー」の評価方法・規準の策定 <p>*①・②いずれも、学芸大学・外部機関との共同開発・アセスメントを行う。</p>

平成28年(2016年)度 SGH事業実施一覧(関連事業含む)

2016年度実施期間	事業内容	対応仮説他
4月6日	4月校内研究会 SGH・SSH今年度の事業計画	I・II
2016年年度初～	課題研究実施	I
4月13日	SGHオリエンテーション4年生～6年生対象(2・3年生を含む)於 第1体育館 ※SSHオリエンテーションも同時開催 ※以下各学年オリエンテーション等実施日	I
4月13日	4年(Personal Project) スーパーバイザーミーティング	
4月20日	4年(Personal Project) スーパーバイザーミーティング	
4月20日	5年(国際5)・6年(国際6) 課題研究I・IIオリエンテーション	
4月21日	第1回 Global Café(ISS防災隊主催)「起震車を体験してみよう」	I・II
5月12日	第3回SGH推進委員会(28年度第1回)開催 於東京学芸大学	II・III
5月16日	UCLグランドチャレンジ事前学習①16:00-16:30 :概要説明	I・II
5月18日	第2回 Global Café(生徒主催)「World Cup Food Fes報告会」	I・II
5月20日	ISSチャレンジ研究実施計画書 エントリーオリエンテーション 15:45- 於公民教室	I
5月20日	UCLグランドチャレンジ事前学習②放課後 :SGH部門 ISSチャレンジオリエンテーションに出席する。	I・II
5月24日	UCLグランドチャレンジ事前学習③16:00-17:00: *UCL Grand Challengeについてガイダンス *自分の課題研究テーマとUCLグランドチャレンジとの関わりの確認	I・II
6月6日	ISSチャレンジ1次審査申請締切(研究実施計画書提出)	I
6月13日	第3回Global Café(交流委員会共催)「ベトナム高校生交流会」ディスカッションテーマ<外国語を学習する意義と、将来への影響>	I・II
6月15日	UCLグランドチャレンジ事前学習④17:00-18:00 *現地取り扱いエージェントJAPAN@UKから説明(保護者同席)	I・II
6月16日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第1回	I
6月18日	第5回公開研究会(生徒成果発表・生徒中間発表)	I・II
6月18日	第1回SGH情報交換会	III
6月24日	第1回評価策定委員会開催	III
6月28日	UCLグランドチャレンジ事前学習⑤16:00-16:30 *ISSチャレンジに出した研究計画の進捗状況*「リスク」に関する資料提供(委員会から生徒へ)	I・II
6月29日	第1回 課題研究支援セミナー 4講座 早稲田大学 文化構想学部 柳下恵美先生「20世紀前半に世界を魅了した3人の日本人舞踊家 Three Japanese Performers Who Fascinated the West in the First Half of the 20th Century—ピカソもロダンも熱狂したJapanese performers—」・東京学芸大学 岸 学先生「心理学と統計 Psychology and Statistics—一人の心理はデータから読み取れるか?—」・東京学芸大学狩野 賢司先生「生と性 Life and Sexuality—行動生態学の見地から読み解く—」・三井製糖株式会社 宮坂清昭さん「研究と企業 Study and Business activity—砂糖の企業は甘くない?「食」の企業にとって研究が持つ意味とは—」	I・II
7月11日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第2回	I
7月13日	第4回Global Café(生徒主催)「ISS生としてファッションをどうやって楽しむ?+エシカルを考えるワークショップ」	I・II
7月15日	7月校内研究会 国際教養の体系化について・育成すべき資質能力について検討	I・III
7月19日	国際6 未来共創塾開催(三菱総合研究所連携)	I・II
7月19日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第3回	I
7月22日～8月1日	英国研修 UCLグランドチャレンジ参加(於 英国UCL・ケンブリッジ大学)	I・II
7月28日	SGH校 関西大学高等部との交流(於 東京学芸大学附属国際中等教育学校)	I・II
7月31日～8月6日	UK-JAPAN サイエンスワークショップ参加(於 名古屋大学)	I・II
8月22日～23日	Global Discussion参加(於 名古屋大学教育学部附属高等学校)	I・II
8月26日・29日	世界津波の日 高校生サミット 事前学習①	I・II

平成28年(2016年)度 SGH事業実施一覧(関連事業含む)

2016年度実施期間	事業内容	対応仮説他
9月2日	9月校内研究会 国際教養の体系化について検討	I・III
9月5日	第5回Global Café「護身術講習」(ISS防災隊主催)	I・II
9月6日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第4回	I
9月21日	第2回 課題研究支援セミナー 1講座 上智大学 総合グローバル学部 David Wessels 先生「Your World－ Global Peace, Global Conflict」	I・II
9月24日	第1回 課題研究サポート	I・II
10月1日	第1回 運営指導委員会開催	運営指導委員会
10月3日	世界津波の日 高校生サミット 事前学習②	I・II
10月12日	教員会議 研究倫理規定原案審議	I
10月14日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第5回	I
10月17日	10月校内研究会 研究倫理規定について	I
10月19日	第3回課題研究支援セミナー 1講座 立教大学 長 有紀枝先生「「難民」「地雷」問題の 考え方・捉え方」	I・II
10月19日	第6回Global Café「UCL Japan Young Challenge報告会」	I・II
10月20日	ISSチャレンジ研究経過報告書提出締切	I
10月20日	ISSチャレンジ編入生/追加募集エントリー	I
10月25日	第7回Global Café(外部講師型)慶應義塾大学 法学部 教授 駒村圭吾先生「立場を変えても通用する議論を！ーリーガル・マインド(法的思考)の本質とは何か？ー」	I・II
10月27日	世界津波の日 高校生サミット 事前学習③	I・II
10月28日	第2回 課題研究サポート	I・II
11月2日	第2回評価策定委員会開催(於 東京学芸大学)	III
11月10日	第5回高校生国際ESDシンポジウム@東京」および第2回全国SGH校生徒成果発表会 於 筑波大学東京キャンパス	I・II・III
11月11日	評価策定のための指導・助言(於 東京学芸大学)	III
11月11日～17日	5年生 海外ワークキャンプ(於 カナダ バンクーバー周辺)	I
11月18日・19日	金沢大学 第3回SGH研究大会参加(教員)	情報収集・教員交流
11月25日～27日	世界津波の日 高校生サミット参加	I・II
11月26日	ISSチャレンジ外部評価会	I・II
11月28日	第8回Global Café(外部講師型)立教大学 コミュニティ福祉学部 スポーツウエルネス学科 助教 安藤佳代子先生「パラリンピック競技の種目特性を知るー実際の用具に触れてみよう」	I・II
11月30日	第4回課題研究支援セミナー 1講座(日本IBM 土田 泰徳さん「IBM Corporate Services Corps 新興市場における 経済発展の支援と社員の人材育成」	I・II
12月3日	寄附フォーラム参加(国際A生徒・教員)	I・II
12月13日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第6回	I
12月15日	第9回Global Café(生徒主催)映画「THE TRUE COST」上映会ーファストファッション生産の裏側を考える	I・II
12月17日	第1回関東・甲信越静地区 スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会(於 立教大学)	I・II・III
12月26日	SGHフォーラム参加(教員)(於 お茶の水女子大学)	情報収集・教員交流
12月27日	SGH連絡協議会(お茶の水女子大学)・連絡会参加(教員)(筑波大学東京キャンパス)	情報収集・教員交流

平成28年(2016年)度 SGH事業実施一覧(関連事業含む)

2016年度実施期間	事業内容	対応仮説他
1月5日	第4回SGH推進委員会(28年度第2回)開催 於東京学芸大学	Ⅱ・Ⅲ
1月10日	ISSチャレンジ課題研究成果論文提出	I
1月13日	第10回Global Café(生徒主催)トビタテ留学JAPAN 日本代表プログラム体験報告会・アドバイス会	I・II
1月16日・17日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第7回	I
1月20日	SGH校 岡山県立岡山操山高等学校との交流(於 東京学芸大学附属国際中等教育学校)	I・II
1月23日	ISSチャレンジフィールドノート・自己評価票提出	I・Ⅲ
1月25日	第5回課題研究支援セミナー 2講座(慶應義塾大学 佐川徹先生「「敵」と友だちになる方法 アフリカの牧畜民から学ぶ共生のあり方」・早稲田大学 社会科学部 本多 美樹先生「人の移動と国際社会の対応」)	I・II
1月30日	第11回Global Café(外部講師型)東京農業大学 国際食料情報学部 食料環境経済学科 教授 上岡美保先生「今なぜ食育が必要か? 食育の社会的意義とは?」	I・II
1月30日	SGHフィリピン研修 事前学習①	I・II
2月2日	SGHフィリピン研修 事前学習②	I・II
2月7日	SGHフィリピン研修 事前学習③	I・II
2月7日	ISSチャレンジファイナリスト・セミファイナリスト審査結果発表	I
2月9日・10日	SGHフィリピン研修 実地踏査	I・II
2月15日	SGHフィリピン研修 事前学習④	I・II
2月15日	ISSチャレンジ 研究成果ポスター提出締切	I
2月16日	ISSチャレンジ研究代表者ミーティング第8回	I
2月18日	ISSチャレンジ成果発表会兼最終審査会 於 東京学芸大学附属国際中等教育学校	I・Ⅲ
2月18日	SGH校 兵庫県立国際高等学校との交流(於 東京学芸大学附属国際中等教育学校)	I・II
2月19日	都内国立校合同SSH・SGH課題研究合同成果発表会 於 東京学芸大学	I・Ⅲ
2月21日	SGHフィリピン研修 事前学習⑤	I・II
2月22日	第6回課題研究支援セミナー 1講座 上智大学 国際教養学部長 林 道郎先生「リベラル・アーツ教育の可能性と今後の社会について」	I・II
2月24日	SGHフィリピン研修 事前学習⑥	I・II
2月24日	2月校内研究会 SSH・SGH事業で育成を目指す資質・能力と教育目標等の関連について	I・Ⅲ
2月27日	SGHフィリピン研修 事前学習⑦・研修参加者保護者会	I・II
3月9日	SGHフィリピン研修 事前学習⑧	I・II
3月10日	SGHフィリピン研修 事前学習⑨(フィリピン大使館 訪問)	I・II
3月14日	第12回Global Café(外部講師型)NPO法人シオヤレクリエーションクラブ理事長(日本パラ陸上競技連盟普及振興委員, 陸上競技クラブチーム AC・KITA代表) 塩家吹雪氏講演会	I・II
3月14日	SGHフィリピン研修 事前学習⑩	I・II
3月18日	SGHフィリピン研修 事前学習⑪	I・II
3月18日・19日	SGH甲子園出場・関西研修	I・II・Ⅲ
3月20日～25日	SGHフィリピン研修	I・II
3月22日	ISSチャレンジ最終審査会審査結果発表・表彰	I・Ⅲ